

一般社団法人日本 WPA 第 7 期（平成 28 年度）事業活動報告

第 7 期（平成 28 年度）は、前期（第 6 期）総会で承認された新理事会、及び新事務局体制で事業を推進した。

1. 事業の概要

水なし印刷を核とした環境対応印刷技術の普及推進による印刷環境保全、生産性向上、高品質化を推進し、社会に貢献するとともに、印刷メディアの発展に寄与することを目的として、種々の活動を実施した。

(1) 会員数の増減

新規加入は、正会員 3 社、協賛会員 2 社であり、退会会員は、正会員は 3 社であった。その結果、2 社の会員増となった。

(2) 収支実績（決算報告書の P2 参照）

会費収入は、18,166,193 円と予算の 17,256,000 円に対して 91 万円強のプラスの実績。支出は、経常支出以外に、積立金から千葉大学の画像工学科 100 周年事業へ 50 万円を拠出した。期末の正味財産は、20,171,454 円となった。（決算報告書 P3 参照）

2. 個別事業報告

(1) 水なし LED-UV 印刷と印刷機のリノベーションの推進

商業印刷分野での UV 印刷化が進んでいるなか、版材、インキ、ブランケットなどの諸資材の改良が進み、また、印刷機、UV 装置の高性能化と相まって、新たに水なし LED-UV 印刷を開始する実績が出てきている。

印刷機のリノベーションについては、老朽化した印刷機の復活の実例が数多く出て来ている。リノベーションにより、印刷品質の向上・安定が図られ、更には経営資源の有効利用など経営面での貢献も大きく、リノベーションを実施した会員企業からの評価は、極めて高い。

さらには、この印刷機のリノベーションと LED-UV 装置を後付けして水なし UV 印刷化することにより、より生産性が向上し、油性インキ関連のトラブルも解消し、納期対応も可能になるなど、実施会員からは絶賛されている。

リノベーション、プラス後付け LED-UV 装置が、今後の大きな流れになろうとしており、この流れが、日本 WPA の会員増にもつながっている。

(2) 会員サービスの充実

基本となる会員管理システムを更新し、タイムリーで有益な情報を発信できるようになった。

行事関係は、6 月の第 6 期総会での千葉大学平井准教によるセミナー、DRUPA 報告会を

開催した。12月には、来場者17万に登る大規模環境展示会であるエコプロ2016展に出展し、水なし印刷、バタフライロゴの普及に努めた。

水なし印刷の普及を目的に、東京都立職業能力開発センターで、水なし印刷の講座を持つに至っている。

(3) 環境保全活動

基本は、バタフライロゴの普及である。

小学生向けに、日本WPA独自の「エコかるた」を制作し、エコプロ2016展で活用するとともに、会員各社が地元の学校や子供団体への寄贈を実施した。

また、バタフライロゴを掲載した印刷物の増加に注力した。

(4) 継続事業

・カーボンオフセット事業

2009年開始のカーボンオフセット事業は、32社が参加し、第7期は、266件の申請があり、合計611トンをオフセットした。間もなく、総オフセット量が5,000トンに達する見込みである。

カーボンオフセット事業については、決算報告書の日本WPA購買会の損益計算書に示す通りである。

・VOC計測事業

会員各社のVOCの削減活動や見える化活動の支援として、VOC計測事業を継続した。

・CFP事業は参加企業が伸びないため、日本WPA独自のシステム認証から個品別認証に変更し継続した。

以上